

織部灯籠棹石

おりべとうろうさおいし

市指定

所在地：呉服町



織部灯籠は、「十字灯籠」または「切支丹灯籠」とも呼ばれ、茶人大名として知られた古田織部が好んで作った灯籠であり、主に茶室の庭などに立てられた。当灯籠は棹石部分のみが残ったものであるが、上部が十字形を成し、下部正面にマリア像の浮彫りが施されている。当地の切支丹関係の遺品と見られ、当時の信仰の様子と茶の湯の流行を物語る資料である。

織部は安土桃山時代から江戸時代初期に活躍した大名で、千利休に茶の湯を学び、幕府2代将軍徳川秀忠をはじめ諸大名に茶法を伝授したことで知られる。彼はまた焼物にも精通し、織部焼の名でも知れ渡っている。

高さ73cm、幅24cm。